

こう

しゅん

えん

# 恒春園

## 開設 40 周年記念誌

これまで そして これから



介護老人福祉施設・短期入所生活介護・通所介護  
居宅介護支援センター・地域包括支援センター

社会福祉法人 馬島福祉会

# もくじ

|                    |    |
|--------------------|----|
| もくじ                | 1  |
| 開園当時の新聞記事          | 2  |
| 理事長ご挨拶             | 3  |
| あ祝いのことば            | 5  |
| 施設長ご挨拶             | 12 |
| 法人理念・沿革            | 13 |
| 施設長見聞録             | 14 |
| 写真で振り返る40年         | 17 |
| 恒春園のいま             | 19 |
| 私の笑顔のみなもと（職員メッセージ） | 23 |
| 役員名簿・法人内事業所        | 25 |
| あとがき               | 26 |





## 恒春園開園40周年にあたって

馬島福社会 理事長

高 橋 行 憲

社会福祉法人馬島福祉会は昭和52年に設立し、54年3月に川崎市におきましてはじめて民間が設立します特別養護老人ホーム恒春園を開園いたしました。

初代理事長の馬嶋正雄は“老人に希望と恒(つね)に春の光を”と願い、「恒春園」と名付けました。

昭和49年、正雄は恒春園の計画に着手し、各地の老人ホームを視察に回りました。そこで見聞きした老人たちの「誰も顔を見せてくれない」というその虚しく悲しい響きに、老人達の住居は繁華街の中に建てるべきと決心し、川崎駅から700メートルという一等地の私財を投じまして、自らが運営する馬嶋病院と渡り廊下でつながる恒春園が造られました。

この開設は当時の新聞各紙で報道され、「病院直結の老人ホーム」「廊下渡ればもう病院」「医療と福祉を直結」と書かれた見出しが表しますように、今もって国の施策に掲げられてその途上にあります“医療と福祉の連携”を、すでに40年前に構想していたことになります。

ご利用者のお一人おひとりに「やすらぎ」「安心」「よろこび」をもって生活していただけるよう、そして地域福祉への取り組みを通して、自分らしく安心して歳を重ねられる社会・地域・施設づくりに貢献しますを法人理念に、日々ご利用者様、ご家族様に向き合い福祉事業を行ってまいりました。

恒春園開設から40年を経て、当法人は、平成10年に特別養護老人ホーム大師の里を、19年に小規模多機能ホーム縁と奏を開設して、施設と在宅の介護サービス17事業、そして2つの保育園を運営しております。ここまで成長できましたのも地域の皆様方やご家族様、40年という長い間に当法人に関わってくださった多くの方々のご理解とご協力があってのことだとここに深く感謝を申し上げます。

少子高齢社会の波はこれから10年20年とピークに向かっていきます。公益性の高い、非営利法人という社会福祉法人の存在意義を受け止めまして、地域のセーフティーネットを担えるよう川崎の社会福祉の推進に努めてまいる所存でございます。今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。



## 特別養護老人ホーム恒春園

### 40周年に寄せて

川崎市 市長

福田 紀彦

昭和52年に社会福祉法人馬島福祉会を設立し、昭和54年に川崎市で初めての民設民営の特別養護老人ホームが開設されてから40周年の節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

また、貴法人が設立されて以来、保健・福祉・医療をはじめ、本市の地域福祉の向上に寄与されておりますことに、感謝の意を表します。

貴法人が設立された昭和50年代の前半は、それまでの高度経済成長期をさらに加速するべく飛躍的発展を遂げた時期でもありました。

一方で、老人福祉法などの福祉関係法令などの整備も進み、高齢者、障害者、児童といった支援を必要とする方々への必要性が叫ばれ、まさにそのような時期に社会福祉事業の担い手として社会福祉法人馬島福祉会、特別養護老人ホーム恒春園が誕生いたしました。

その後もオイルショック、バブル経済の崩壊、核家族化、急速な少子高齢化など、目まぐるしい社会経済情勢の変化といった時代のうねりの中にあって、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉などの各分野において、一貫して地域や利用者のために、今もなお、発展を続けておられることは、今日までの先人が築かれた伝統ある長い歴史と、理事長様をはじめ、職員の皆様の御努力に深く敬意を表する次第であります。

本市では「誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現」を目指し、医療や介護、福祉サービスを含めた生活支援サービスが日常の場で適切に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に向けて取り組んでいるところですが、実現には、行政のみならず、福祉の最前線である施設などの現場で働く皆様方をはじめ、関係者の皆様の御支援が不可欠であります。

市民、地域、事業者、関係団体、行政が一致団結し、川崎がもっともっと住みやすい街にするために、「成長」と「成熟」の調和による持続可能な「最幸のまち」を目指し、貴法人におかれましても地域から信頼される社会福祉法人、愛される施設であり続けられることに期待しているところでございます。

結びとなりますが、社会福祉法人馬島福祉会が、ますます飛躍されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 特別養護老人ホーム恒春園設立 40周年をお祝いして

社会福祉法人  
川崎市社会福祉協議会 会長

佐 藤 忠 次

このたび、特別養護老人ホーム恒春園が設立40周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

社会福祉法人馬島福祉会の中でも最も歴史ある施設として、歴代の理事長や施設長をはじめ、職員並びに関係者の皆様の並々ならぬ熱意と絶え間のない御努力の賜物とあらためて敬意を表する次第です。

昭和54年に川崎市で初めて民間設立の特別養護老人ホームとして設立され『その人がよりその人らしく生活できる』『安心してゆとりある暮らしができる』『地域からも信頼される』を基本理念として、高齢者の福祉の向上のために寄与してこられ、地域に開かれた施設づくりにご尽力されてきたことは高く評価されるべきものと存じます。

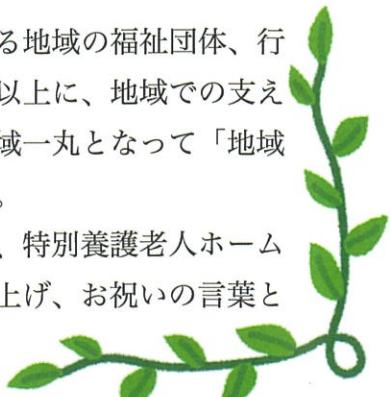
私ども川崎市社会福祉協議会にも、当初から会員として御加入いただき、施設部会事業や各種委員にご就任いただき、本会の運営に御協力をいただいておりますことを深く感謝申し上げる次第です。

この間、老人福祉においては措置から介護保険へと大改革が行われ、介護保険制度の創設以降、急速なサービス供給の拡大と多様化、それに伴う給付費の増加の一方、サービスの質の向上への高まり、介護人材不足の顕在化や施設利用者の重度化、地域包括ケアシステム構築の必要性、さらには介護報酬改定や社会福祉法人制度改革等、老人福祉施設を取り巻く環境はますます厳しくなっております。

このような状況の中においても、貴施設は社会福祉施設としてこれまで長年培ってきたノウハウや地域とのつながりを活かし、社会福祉に関する勉強会の開催、ボランティアと協力して収穫祭（秋祭り）や施設内で毎月“喫茶”を開催するなど、地域福祉の推進にも取り組まれております、より一層の御活躍を御期待申し上げる次第でございます。

私ども川崎市社会福祉協議会といたしましても、貴施設をはじめとする地域の福祉団体、行政、その他多くの関係者の皆様方と連携、協力し合いながら、これまで以上に、地域での支え合い活動の充実と分野・領域を横断したネットワークの強化を図り、地域一丸となって「地域包括ケアシステムの実現」に向けた活動を進めていく所存でございます。

末筆となります、設立から40周年を迎えるこの大きな節目を機に、特別養護老人ホーム恒春園の今後ますますのご発展と皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。





## 創立 40 周年によせて



社会福祉法人  
川崎市川崎区社会福祉協議会 会長

大 橋 新太郎

特別養護老人ホーム「恒春園」の創立 40 周年にあたり、心よりお喜び申し上げると共にお祝い申し上げます。

貴園におかれましては、昭和 54 年に川崎市ではじめての民間施設として開設され、開設当初から、「その人がその人らしく生活できる」「安心してゆとりある暮らしができる」「地域からも信頼される」の三つの基本理念のもと、川崎市の高齢者福祉の中核的な拠点施設として、大きな役割を果たされてきたところであります。

これもひとえに、社会福祉法人「馬島福祉会」をはじめとする関係者の皆様方の永年にわたる御尽力の賜と、深く敬意を表する次第でございます。

開設以来、下町情緒溢れる川崎の駅前に居を構え、きめ細やかなサービスの提供に努力を重ねられ、川崎を愛する高齢者やその家族の皆様の支えとなり、安心して生活を営むことができる施設として地域に信頼され、今日まで高い評価を得てこられました。この間、運営に尽力されました法人の関係者の皆様や、特に昼夜を問わず介護に取り組まれてきました職員の方々の御努力は計りしれないものがあり、ここに感謝を申し上げる次第でございます。

高齢化率からみれば、比較的若いとされている川崎市でも、高齢化は着実に進行しており、高齢者介護を取り巻く環境はますます厳しさを増しておりますが、創立 40 周年を契機として、これまで培ってこられたノウハウや経験を活かし、今後ますます多様化するニーズに応え、地域の高齢者福祉の向上に更に貢献していかれることを切に期待いたしております。

川崎区社会福祉協議会も、2020 年 4 月には川崎市社会福祉協議会と法人合併することとなっており、より地域に密着した地域福祉活動を展開していく所存でございます。

これからもお互いが協力し、地域の実情やニーズに即した事業を展開していくことにより、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現を目指して、川崎区の地域福祉に取り組んでまいりたいと存じますので、今後とも御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様方の御健勝と「恒春園」並びに「馬島福祉会」のますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。





## 「恒春園」設立40周年に寄せて

医療法人社団恒春会馬嶋病院 理事長・院長

馬 嶋 正 和

このたび、恒春園が設立40周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

我が祖父である馬嶋正雄が恒春園を設立した1979年（昭和54年）は、高齢化社会を迎えたときりや老人医療費無料化などの老人医療問題が世間で関心を集め始めた一方で、高度経済成長期真っ只中にあった日本は、国全体が若く活気に満ちあふれていた時期でもあり、老人軽視の風習、老人医療に対する無理解や誤解が残っていた時代でもありました。当時の老人ホーム、いわゆる養老院や養老施設も、戦争や災害で家族や身寄りを失い、自立した生活が困難になった高齢者のための施設で、生活に困窮した高齢者が“収容される”“保護される”施設という負のイメージが強かったようです。恒春園設立にあたっても、当時としては街中に老人ホームを設立することは珍しく、「家の前を靈柩車がひっきりなしに通るのはごめんだ」「老人で街がよごれる」など近隣の方の反対が強く、設立者自ら、説明のため、ご自宅に訪問しても取り合うことすらしてもらはず、居留守を使われたこともあったそうです。そうした時代背景のなか、敢えて川崎という街中、繁華街に、そして病院を併設という最大の利点を活かし、世間のイメージを払拭するような新しいタイプの老人ホームを設立したいという思いが、設立者の信念であり、恒春園に対する強い思い入れであったと聞いております。

ときは流れ、時代は超高齢社会、さらに団塊の世代が75歳を迎える2025年問題を見据え、昨今の医療界では、「高齢者が地域で、可能な限り自立した生活をおくことができる医療、介護、福祉の連携が包括的に確保される体制」いわゆる地域包括ケアシステムの構築が取り沙汰されています。設立者の強い信念は実を結び、設立に反対されていた恒春園も、今や地域の方にとって欠かせない施設となっております。川崎で生まれ育った高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を送り、病院・介護施設・地域包括支援センターなど支援のもと、その人生を全うし、そしてその愛着のある土地で最期のときを迎える。地域の方々はこうした安心感をもとめているのかもしれません。

今後、高齢化のスピードがますます高まるなか、われわれに寄せられる期待はたいへん大きなものを感じております。創立から長い間過ごしてきたこの川崎の地で、設立者が思い描いていた地域に密着した医療に対する強い信念に敬意を表すると共に、その期待に応えるべく心を新たにする所存です。

最後に、今般の設立40周年を契機として、恒春園の今後ますますの御発展と皆様方の御健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いのことばとさせて頂きます。



## 恒春園設立40周年に寄せて



小川町町内会 会長

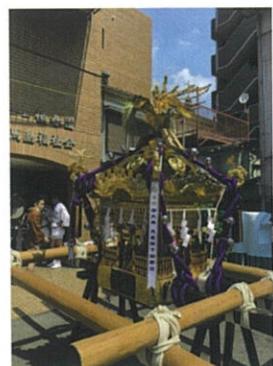
鬼塚 保

「特別養護老人ホーム」現在このような施設が全国で不足していることは多くの方が認識していることと思います。40年前に恒春園を建設するにあたっては、近隣の方々の同意を得るのにたいへん苦労したと伺っております。高齢化が進んでいる今、地域も一緒になって福祉、老人ホームなどについて関心を持たなければと感じております。

私は永年にわたり恒春園と同じ町内の町内会長を務めさせていただいていますが、現在は恒春園と町内会は色々な関りを持っております。その内の一つが毎年恒例になっている夏祭りです。町内自慢の神輿が担ぎ手の元気な掛け声と共に恒春園の中庭に入っていくと真夏の暑い中、待っている入園者の皆さんのが笑顔で迎えてくれる姿が思い浮かびます。

入園されている方、デイサービスを利用されている方、そして職員の皆さんとの家族的な関係が信頼を生み、40年という歴史を作り上げてきたと思います。

終わりに、これからも恒春園が、お年寄り、また地域にとりましても安心とやすらぎのある施設として継続されていくことを願うと共に、今日迄ご苦労された職員の皆様、関係者の皆様に感謝とそして心を込めて拍手を送りたいと思います。ありがとうございました。



昭和 56 年





## 40周年に寄せて

恒春園 家族会 代表幹事

木 村 和 子

開園40周年を迎える心よりお祝い申し上げます。

家族会も昭和57年発足以来、園とともに歩んでまいりました。長い間活動が続けられたのもひとえに職員の皆様のご協力があってのことと感謝しております。

私も主人の母が入所してからOBの現在まで23年の歳月が流れました。しかし、OBの中には発足当初より活動を続けている経験豊富な先輩方も居られ、それが家族会の強みになっていると思います。

活動としては以前は清掃を行っていましたが、この2~3年は入居している方とカラオケを楽しんでいます。カラオケを始めた頃はマイクを向けると恥ずかしがってしまう方が多かったのですが、現在は皆さんご自身の十八番の曲を楽しそうに歌ってくれています。歌えない方も知っている曲が流れると手拍子をされたり、目を細め喜んでくださっている様子がみられます。また、中には昔を思い出し涙を流される方もいます。少しでも多くのご家族とこの愛しい時間を共有したいと願っています。

毎月第四日曜に活動していますが、3つのグループに分け担当月を決めて活動していますので年に4回だけでも参加していただけるとうれしいです。ぜひ多くのご家族に参加していただき、ご自分のご家族だけではなくその他の入居者の方や職員さん、恒春園に関わる家族同士、多くの方と交流していただき、微力ながら恒春園と一緒に盛り上げていきましょう。





## 恒春園開設40周年に寄せて

恒春園 第五代 施設長

佐々木 久要

日本テレビの24時間テレビの始まりと共に私の福祉人生も始まり、また馬島福祉会も同時期に設立され恒春園が開設されました。当時は老人福祉の世界でも「寝たきり老人（今はこのような表現を用いる事はありませんが）にお風呂を」等と入浴サービスカーやリフト車を贈る事もメインテーマにもなっていたように思い返します。また当時は在宅か施設かと言うような二者択一的側面と施設が同時期に全国的にもたくさん設立された時代でもありました。開設間もない恒春園には24時間テレビから寄贈されたリフト車が運行しており募金箱を車に持参される方もいました。未だに同テレビを見ると恒春園を思い出します。川崎市内で初の民間立の特別養護老人ホームとして担ってきた役割は大きなものがあると思います。時代のニーズや利用者ニーズに応じて社会福祉法人として柔軟に臨機応変を心がけ、様々な経験や体験は未だに私の財産ともなっています。

日本の老人ホームは養老院（これまた現在は使われることはありません）から始まり特別養護老人ホーム主体の施設体制へと変化し、措置の時代や費用徴収と言う応能負担や扶養義務者の負担などの時期を経て、現在の介護保険制度が創設されました。しかし時代がどんなに変わろうと福祉の基本は人間愛です。総ては他者への興味や関心から始まり、洞察力や観察力によって様々なサポートが可能になるのだと思います。興味や関心での気づきが大切なんだとも思います。私事ですが新卒で恒春園にお世話になり施設の相談員（当時は生活指導員と言われていました）からはじまり在宅サービスや包括支援センターなど様々な場面を通して約30年近くの時間を共に過ごしてきて、10年前に郷里の北海道に戻り今年還暦を迎えるました（笑）。恒春園が、今後も地域の一員として発展し進化し頼られる施設として職員として益々ご活躍されることを祈念して40周年の節目を一緒にお祝いしたいと思います。





## 社会福祉法人 馬島福祉会 恒春園 竣工40周年によせて

恒春園 第六代 施設長

白橋 賢一

馬島福祉会設立から42年、そして恒春園の竣工から40周年、誠におめでとう御座います。いくつもの困難を乗り越えて恒春園は存在しています、皆さんは今日に至るまで幾人もの方々の力を借りて来た事に感謝し、数え切れない程の高齢者を支えてきた事を、誇りにして頂きたいと思います。

私の知る恒春園は、古めかしい多床室の特養というハードに、最新の個別ケアを実践できる優秀なスタッフがいる、摩訶不思議な施設です。流行のロビーに綺麗な個室、その中には上等な設備があり、景観も申し分ない、そんな施設が沢山出来ています。私はユニットケアを否定する気は、ありませんが、今の風潮は多床室を否定し、個室ユニットが個別ケアに必須と思われています。恒春園は、その時流に真っ向から挑み、要介護高齢者の満足とは?を問い合わせています。恒春園は、様々な介護方法を試し、実践し利用者の満足を実現し続けている希有な存在だと思います。それは、要介護状態の高齢者にとって優先されるべき課題を絞り込み、その価値観を尊重し、多床室であっても、ご利用者とご家族に十分に満足のいくサービスが提供できることを証明している、多様性を求められる現在において貴重な存在です。

巷には、高齢者の事が好きな介護職員は沢山います、しかし職員が、自施設に愛着と誇りを持ち、苦労さえも楽しみながら団結出来る施設を私は他に知りません。その帰属意識こそが、困難を乗り越える原動力だったと確信しています。

皆さんの志があれば、今後多くの課題を乗り越え、地域に無くてはならない、愛される施設として発展することと思います。

将来、私が要介護者になって支援が必要になった時には、私の事を認めてサービス提供をしてくれる、今の恒春園に入りたいと思っています。

最期に、これからの方々の、ご活躍と成長に期待し再会できる日を楽しみに、重ね重ねになりますが、40周年おめでとう。

令和元年10月吉日

むかしの施設長 白橋 賢一





## 40周年を新たな出発点として

社会福祉法人馬島福祉会 恒春園  
施設長

竹本 健寛

私が介護に興味を持ったのは、介護士だった兄が入浴嫌いの祖母に対して楽しそうに介助をし、介助をされた祖母もとても気持ちよさそうにしながらずっと笑顔を見せていましたがきっかけでした。

就職先を決めるとき、恒春園はすでに創立20周年を迎えていました。歴史のある施設ではどのような介護がおこなわれているのかと思い恒春園に入職しました。その頃はまだ自立している方が多く（平均介護度2.8）今と比べるときっと楽ではあったのでしょうかが未熟な自分にとっては苦労の連続でした。その中でも、さまざまな支援や介助方法をあれやこれやと試行と反省を繰り返し、その人らしさを大切にした寄り添いの介護を実践してきました。今は立場は変わりましたがあの頃自分がそうだったように、一人ひとりの職員がご利用者様について考えたことを否定されることなくのびのびと働く恒春園をつくっていきたいと思っております。

恒春園が40周年を迎えた今、時代は超高齢化社会を迎えています。介護保険制度も改正を重ね、恒春園の特徴は平均介護度が4.4と重度化し、さらに少子化により人材の確保が困難になっています。しかし、20年前と変わらずアットホームな雰囲気や寄り添いの介護は変わらず守られています。また、在宅も高齢者の独居や核家族化、老々介護等、数多くの困難な課題が出てきていますが、地域包括ケアシステムの構築を軸とした住み慣れた地域で安心して最後まで暮らせるための支援方法を思案・検討・実施しています。

40年という恒春園の長い歴史の中で、未熟な私たちが今日の日を迎えることができましたのも、川崎市をはじめ行政、地域の皆様方の温かいご指導・ご支援、恒春園に関わり働いてくださった歴代の理事長・施設長・職員の努力の賜物と心より感謝いたしております。

40周年を新たな出発点に、これからも「やすらぎ」「安心」「よろこび」の法人理念を持ち、培ってきたノウハウや経験を活かしながら、より良い介護サービスが提供できるよう、恒春園は前進していきたいと思います。これからも、皆様のさらなるご指導・ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 法人理念

私たちは、ご利用者のお一人おひとりに「やすらぎ」「安心」「よろこび」をもって生活していただけるよう、心がけます。

私たちは、ご利用者とご家族・地域社会・スタッフの、心と心を通わせた地域福祉への取り組みを通して、いくつになってもよろこびや生きがいを感じながら、自分らしく安心して歳を重ねられる環境・街（社会・地域・施設）づくりに貢献します。



## 沿革

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1977年5月   | 社会福祉法人馬島福祉会設立     |
| 1979年3月1日 | 特別養護老人ホーム 恒春園 開設  |
| 1998年4月1日 | 特別養護老人ホーム 大師の里 開設 |
| 2007年5月1日 | 小規模多機能ホーム 縁 開設    |
| 2007年7月1日 | 小規模多機能ホーム 奏 開設    |
| 2013年4月1日 | だいしの里保育園 開設       |
| 2015年4月1日 | なかじま保育園 開設        |

恒春園は社会福祉法人が運営する川崎市第1号の特別養護老人ホームです



# 施設長見聞録

恒春園一筋20年、施設長竹本が恒春園にまつわる皆さんにインタビューをしました!

～40周年と聞いてどうですか？～

「父は恒春園が始まってすぐの頃から携わっていました。自分は専門学校の頃もお邪魔していて、その後25歳頃からはずっと来ていて20年、トータル30年近くになります。感慨深いです。」

そんなに長い期間継続することは本当に難しいことだと思います。大変感謝しています。

～お父様の記事を読んでどう思われますか？～

「中学生の頃のことなんて覚えてないです。ただ、父の思いを受け継いで今も社会貢献できていることをうれしく思います。」

～長い年月の中で印象深いことは？～

「ここに来始めた頃の方がまだお元気でいることですね。」

～奥様から何かありますか？～

「自分たちもいつかお世話になるかもしれないのに、こういった機会がないと老人ホームってどんなところかわからないのでとてもいい機会になります。お客様との会話でも恒春園を見ているので答えられることもありますし。」

「それと、髪を切った後に鏡を見て喜ばれる姿を見ていると自分の祖母を思い出します。いくつになっても女性はおしゃれを気にしていますよね。もちろん、男性も眉毛を切ってほしいとか気にされる方も。そういうお手伝いを出来ることはあります。自分の子供たちにここでのこと話をしています。」

ありがとうございます。これからもお願ひします。



親子二代に渡り恒春園のご利用者さまのおしゃれをつくってくださっている

ミトメ理容

見留 隆弘・嘉代 様 ご夫妻



＜恒春園10周年記念誌に寄せられた  
見留様お父様の記事＞

笑顔に支えられて

ミトメ理容 見留 史郎

みなさん、おめでとうございます。

わたしが皆さんと初めて御縁ができたのは、昭和57年の春だったと思います。わたしの父は鶴見で、永年町会長を仰せつになっており、日頃なにかにつけ地元の皆さんとの融和について、心掛けるように言われてもらいました。そんな矢先に福祉事務所からのお声があり、軽い気持ちで賛同いたしました。

毎月、第1火曜日と第2火曜日の2回に、それぞれ15名ほどの調髪をさせていただけております。従業員も気持ちよく参加してくれます。先日、室内に向かって中学生の息子が、「ぼくも大人になったら恒春園に行きたい！」と言ったそうです。芽生えたのです。息子にも“いたわりの心”が……。

恒春園のみなさんは、ほんとうにいい方ばかりです。若い従業員が喜んで参加したくなるような、あたたかい笑顔があるからです。

非力ですが「継続は力なり」という言葉を目標に頑張ります。恒春園の皆さん万歳！

